

Q-AOS ブラウンバックセミナー

2024 **11.6** (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 演者紹介
12:15-12:40 プレゼン
12:40-12:50 質疑応答

オンライン (Zoom)

No. **164**

Brown Bag Seminar 特別回

https://us02web.zoom.us/j/9043333333 [技術支援] 九州大学 Q-AOS

司会：清水 周次 副理事 (九州大学)

Asia Week 特別講師

コルクット・ギンゲン 大使
駐日トルコ共和国特命全權大使

1968年3月17日 イスタンブール生まれ。
アンカラ大学政治学部 国際関係学科卒。
1989年に外務省入省後、東欧、キプロス、北大西洋条約機構 (NATO)、欧州安全保障協力機構 (OSCE)、軍縮・軍備管理、欧州連合、国際連合およびその他国際機関や人道支援に係る様々な部署にて勤務。在北キプロストルコ共和国および在リトアニアトルコ共和国大使館、西欧同盟 (WEU)、欧州連合、欧州安全保障協力機構 (OSCE) のトルコ政府代表部に駐在。駐エクアドルトルコ共和国大使、本省にて多国外務局長を経て2021年より駐日トルコ共和国大使。

外交関係樹立 100周年を迎えたトルコと日本の二国間関係

Key Words

外交関係樹立 100周年
二国間関係
外交

トルコと日本は2024年に外交関係樹立100周年を迎えました。他方、トルコと日本の絆のはじまりは、さらに過去に遡ります。エルトゥールル号事故 (1890年) やイラン・イラク戦争時の日本人救出 (1985年) のみならず、震災発生時の助け合いを通して、両国民の間の連帯を深めてきました。

本セミナーでは、これまで互いが困難な状況にあるときに常に手を差し伸べてきたトルコと日本の友好の歴史や外交関係の歩みを振り返るとともに、2013年に戦略的パートナーシップ関係に格上げされた二国間の協力関係の今と今後の展望をご紹介します。

Contact Information Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS) 744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN Tel: +81-092-802-2603

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

2024 **11.13** (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 演者紹介
12:15-12:40 プレゼン
12:40-12:50 質疑応答

オンライン (Zoom)

No. **165**

災害時の農業ボランティア活動 × 平時の田園保全

3 環境保全
11 都市・農村
13 環境問題
15 環境教育

Key Words

里地・里山保全
ボランティア 災害
広葉樹林 UAV

朝廣 和夫 教授
九州大学 芸術工学研究院 環境設計部門

名嶋 昌夫 1995年九州大学工学部大学院を修了し、1995年 (株) アール・デザイン・コンサルタンを経て、1996年九州芸術工科大学環境設計学専攻として在籍しました。2004年英国ロンドン大学インペリアル校在外研究員として滞り、2006年に博士 (芸術工学) を取得しました。2009年九州大学大学院芸術工学研究院准教授、2023年に同教授として勤務しています。

専門は緑地保全学と称しており、主なテーマは、都市及び山村における緑地環境の保全を目的とし、里山保全のボランティア活動をベースに、都市や山村の緑地を有効に活用し、リサリサを促進してきました。ここ数年は、それらの知見を中山間地帯後の農林地帯支援モデルに関する研究や、「パンクラチウ・テラ半島における緑地保全研究」に応用。現在は、UNILIDAR、いわゆるドローンを用いた里山の精緻化な管理活動に関する研究を進めています。

受賞については、2018年に、アジア環境デザイン学会 環境研究賞をいただきました。主な著書としては、「災害後の農地復旧のための共同設計の手引き」を2016年、2020年に改訂版を公開。その他、共著で、「よみがえれ里山」(環境・建築・里山：里地の変化と保全活動) 築地舎 (2010年)、「デザイン教育のススメ-体験・実践型コミュニケーションを学ぶ-」を 豊 隆 (2012年)、「Deforestation in the Teknaf Peninsula of Bangladesh」Springer (2017年)、「フジツルアートルラポ地帯と社会包摂」水曜社 (2021年) などがあります。

プロジェクト等については、各地の里山保全や山村の保全、都市部の緑地保全、まちづくりの発展促進や防災活動のアドバースを行うとともに、芸術工学研究院では、2015年より九州大学ソーシャルアクトラポのコアメンバーとして、奥八女芸術学校など、教育・研究・実証・普及活動を展開。2012年より九州大学芸術工学研究院では、産学官連携、産地帯支援、九州大学復興支援団での地域支援活動を継続してきました。

本日の話題は、私が長年、教育・研究で携わってきた里地・里山保全活動と、災害時の農業ボランティア活動の展開について紹介します。まず、環境設計という学び舎を修了した私の教育・研究・実践の経緯と概要です。続いて、里地・里山保全ボランティア活動の展開について、その役割と得られるコトについて触れます。そして、2012年ごろから展開しだした災害時の農業ボランティア活動のメカニズムについてご紹介します。

Contact Information Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS) 744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN Tel: +81-092-802-2603

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

2024 **11.20** (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 演者紹介
12:15-12:40 プレゼン
12:40-12:50 質疑応答

オンライン (Zoom)

No. **166**

情報伝搬としてのリーダーシップ

～演繹的・論理的なアプローチによるリーダーシップのモデル化～

Key Words

定義演繹法
二重過程理論 (システム1/2)
理論/前提/定理

池田 大輔 准教授
九州大学 システム情報科学研究院

九州大学のコンピュータセンター、附属図書館を経て現在、九州大学の情報系学部の准教授です。学士、修士、および博士の学位を、それぞれ1994年、1996年、2004年に九州大学から授与されました。主な研究の興味はe-Scienceとリーダーシップです。前者は、ICTを用いた科学のことで、文系のテーマも含む様々なトピックを対象に研究を行っています。後者の研究は、約11年前から、全学の大学院生に向けた副専攻プログラム「決断科学」に参加したことにより始めたものです。情報処理学会および日本心理学会に所属しています。

リーダーシップの関連書籍は多くあり、一般の方にも興味あるトピックだと思います。心理学、経営学、社会学など人文社会系の多くの分野で研究されており、学術的にも重要視されています。従来は、アンケート調査データを解析し、得られた結果から新たなリーダーシップを定義してきましたが、様々なリーダーがいるため、様々な定義が乱立し、互いの関係は不明という状態です。本発表では、定義から論理的に得られる結果によって元の定義を評価することで、過去のリーダーの突拍子もない行動やマネジメントの違い等を導出できるようになります。本発表により、新しいけど腑に落ちるリーダー像が伝わればと思います。

Contact Information Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS) 744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN Tel: +81-092-802-2603

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

2024 **11.27** (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 演者紹介
12:15-12:40 プレゼン
12:40-12:50 質疑応答

オンライン (Zoom)

No. **167**

脂肪の“さび”について考える

Key Words

酸化脂質
レドックス 質量分析
疾患 ドラッグリポジショニング

山田 健一 教授
九州大学 大学院薬学研究院 分子病態解析学分野

1994年に九州大学薬学部を卒業し、1999年3月に九州大学大学院薬学研究科にて博士 (薬学) の学位を取得しました。その後、アメリカ National Institutes of Health (NIH) の National Cancer Institute (NCI) に2年間、留学しております。2002年より九州大学大学院薬学研究科助手、2005年に助教 (後、准教授)、2016年より同教授に就任しております。その間、2013年にJST さきがけ、2017年からはAMED-CREST 研究代表者を務めております。さらに、2023年12月からは、主幹教授であります。以前は磁気共鳴を専門としておりましたが、2009年に独立し、今回ご紹介いたします酸化脂質をターゲットとした研究テーマを新たに立ち上げております。

脂肪には、多くの種類があります。中でもアラキドン酸などの多価不飽和脂肪酸は、活性酸素や紫外線などによって、容易に酸化されます。この酸化という反応が、いわゆる脂肪の“さび”であります。最近になって、この酸化脂質が、生体内で炎症反応や細胞死を引き起こすこと、また、加齢黄斑変性など多くの疾患で蓄積していることが分かってきております。そこで本セミナーでは、酸化脂質を検出する手法について、さらに、この酸化脂質生成を抑制できるような分子の探索方法についてご紹介いたします。

Contact Information Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS) 744 Motooka, Nishi-Ku, Fukuoka-City, 819-0395, JAPAN Tel: +81-092-802-2603